

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成31年1月～3月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成31年4月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 31 年 1～3 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市商工会、大河原町商工会、みやぎ仙台商工会、くろかわ商工会、加美商工会、遠田商工会、若柳金成商工会、みやぎ北上商工会、石巻かほく商工会、本吉唐桑商工会
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 148 企業

2. 調査対象期間

平成 31 年 1 月～3 月期を対象として、調査時点は平成 31 年 3 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	32
建 設 業	26
小 売 業	44
サービス業	46
合 計	148

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

(1) 主要景況項目のあらまし

① 業況D I の状況と来期見通し

県下商工会地区における今期(平成 31 年 1 月～3 月期)の調査において、産業全体(全産業)の業況D I(前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より△4.8 ポイントの悪化で△35.4(前期△30.6)となった。産業別にみると、製造業が△26.6(前期△18.7)と△7.9 ポイント悪化、建設業で△42.4(前期△30.8)と△11.6 ポイント悪化、小売業で△52.3(前期△51.2)と△1.1 ポイント悪化、サービス業では△20.5(前期△19.6)と△0.9 ポイントの若干の悪化となった。

来期見通しについては、産業全体(全産業)としては改善の見通しである。産業別にみると、製造業については若干の改善見通し、建設業、小売業、サービス業については改善の見通しである。

表一1 業況D I の状況と来期見通し (前年同期比・D I)

業 種	前 期	今 期	来期見通し
全 産 業	△ 30.6	△ 35.4	△ 30.4
製 造 業	△ 18.7	△ 26.6	△ 25.8
建 設 業	△ 30.8	△ 42.4	△ 26.9
小 売 業	△ 51.2	△ 52.3	△ 50.0
サービス業	△ 19.6	△ 20.5	△ 16.0

② 設備投資の状況と来期計画

新規投資の実施比率は、製造業では 15.6%で前期比△3.1 ポイント減少、建設業では 11.5%で前期比 3.8 ポイント増加、小売業では 4.5%と前期と同じ、サービス業でも 13.0%と前期比△7.0 ポイント減少した。

来期に設備投資を計画している企業は、今期に比べ製造業では減少、建設業で増加、小売業は横ばい、サービス業では増加となっている。

表一2 設備投資の状況と来期計画 (企業割合・%)

業 種	前 期	今 期	来期計画
製 造 業	18.7	15.6	12.5
建 設 業	7.7	11.5	15.4
小 売 業	4.5	4.5	4.5
サービス業	20.0	13.0	15.2

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

2019年（H31年）3月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期（2018年12月調査）と比較して、製造業が△8ポイント悪化のプラス6、非製造業は1ポイント上昇のプラス12だった。先行きは製造業、非製造業共に今期に比べ悪化を見込んでいる」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では製造業は悪化したが、建設業、小売業、サービス業で改善となった。

今期の宮城の全国・東北との売上額D I比較では、製造業・建設業・小売業では全国・東北以下、サービス業では全国・東北以上であった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 10.9	△ 18.4	△ 20.5	△ 38.0	△ 18.8	△ 40.6
建 設 業	△ 4.0	△ 3.1	△ 20.0	△ 28.5	△ 53.8	△ 42.3
小 売 業	△ 32.2	△ 37.9	△ 43.7	△ 47.0	△ 52.3	△ 47.7
サービス業	△ 21.1	△ 21.3	△ 28.8	△ 34.7	△ 19.6	△ 15.2

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では、製造業・建設業で悪化、小売業・サービス業で改善となった。

今期の宮城の全国・東北との採算D I比較では、売上額と同じく製造業・建設業・小売業では全国・東北以下、サービス業では全国以下、東北以上であった。

表－4 採算の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 14.6	△ 21.1	△ 24.4	△ 33.0	△ 18.7	△ 34.3
建 設 業	△ 9.9	△ 10.0	△ 20.0	△ 24.3	△ 23.1	△ 42.3
小 売 業	△ 32.5	△ 33.0	△ 43.7	△ 41.3	△ 58.2	△ 52.3
サービス業	△ 23.9	△ 26.6	△ 30.5	△ 35.5	△ 33.4	△ 27.2

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（H31年4月～6月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業で9.4ポイントの改善、建設業で3.8ポイントの改善、小売業で2.2ポイントの改善、サービス業でも4.3ポイントの改善の見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で3.1ポイントの改善、建設業で7.7ポイントの改善、小売業で横ばい、サービス業で4.4ポイントの改善見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では売上は全国、宮城共に改善、採算でも全国、宮城共に改善の見通しとなった。建設業では売上は全国で悪化、宮城で改善、採算も全国で悪化、宮城で改善の見通しとなった。小売業では売上は全国、宮城共に改善の見通し、採算では全国で改善、宮城で横ばいの見通しとなった。サービス業では売上は全国、宮城で共に改善、採算でも全国、宮城で共に改善の見通しとなった。

表－5 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 18.4	△ 12.9	△ 40.6	△ 31.2
建 設 業	△ 3.1	△ 10.7	△ 42.3	△ 38.5
小 売 業	△ 37.9	△ 36.0	△ 47.7	△ 45.5
サービス業	△ 21.3	△ 17.5	△ 15.2	△ 10.9

表－6 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 21.1	△ 16.5	△ 34.3	△ 31.2
建 設 業	△ 10.0	△ 12.0	△ 42.3	△ 34.6
小 売 業	△ 33.0	△ 30.9	△ 52.3	△ 52.3
サービス業	△ 26.6	△ 22.8	△ 27.2	△ 22.8

2. 県下産業別の景況

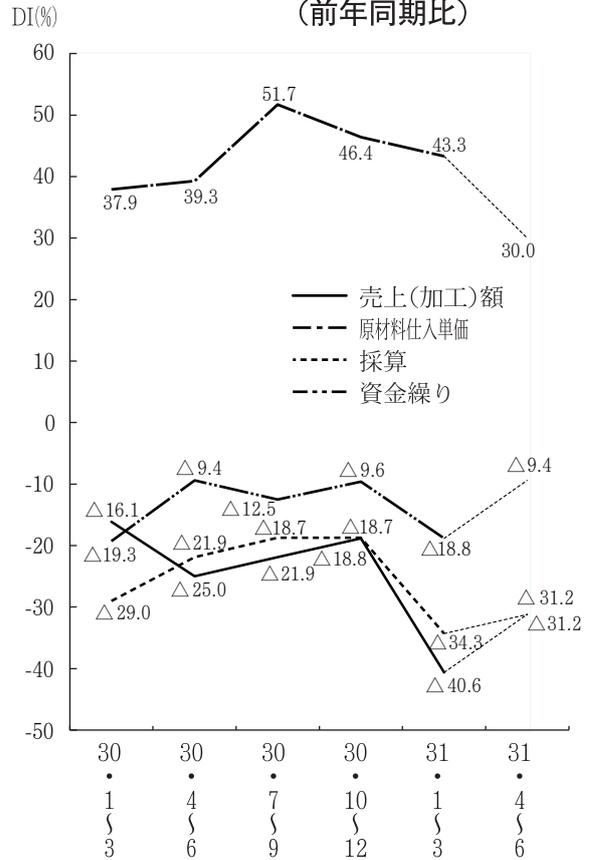
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△40.6（前期△18.8）となり△21.8ポイント前期より悪化、採算D Iも今期△34.3（前期△18.7）で△15.6ポイント悪化、資金繰りD Iでも今期△18.8（前期△9.6）で△9.2ポイント悪化した。

原材料仕入単価は今期 43.3（前期 46.4）と△3.1ポイント下落した。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



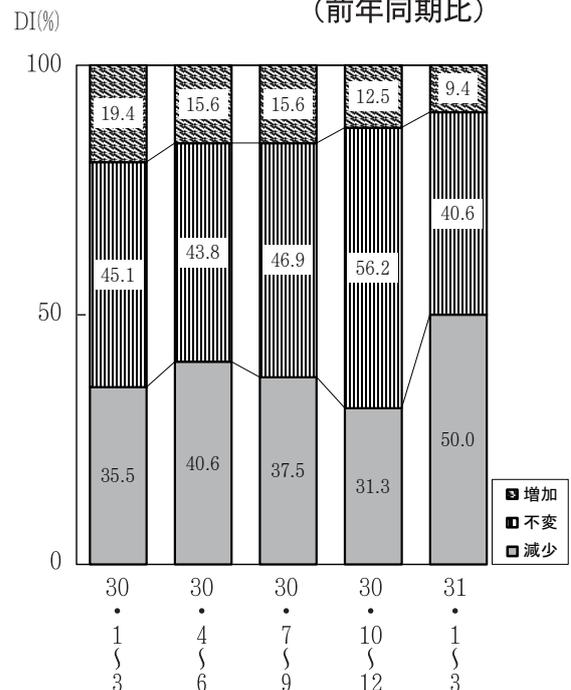
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工) 額

「増加」と回答した企業は、全体の9.4%（前期12.5%）と△3.1ポイント減少、「減少」と回答した企業は50.0%（前期31.3%）と18.7ポイント増加した。

その結果、売上（加工）額D Iは△40.6（前期△18.8）となり前期比△21.8ポイント悪化した。

図1-2 売上(加工) 額の状況
(前年同期比)

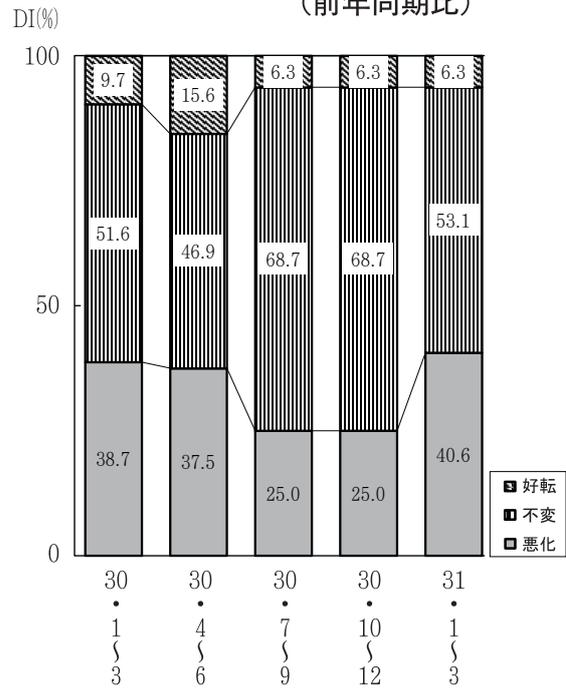


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 6.3% (前期 6.3%) で横ばい、「悪化」と回答した企業は 40.6%(前期 25.0%) で 15.6 ポイント増加した。

その結果、採算 D I は△34.3 (前期△18.7) で前期より△15.6 ポイント悪化した。

図 1 - 3 採算の状況
(前年同期比)



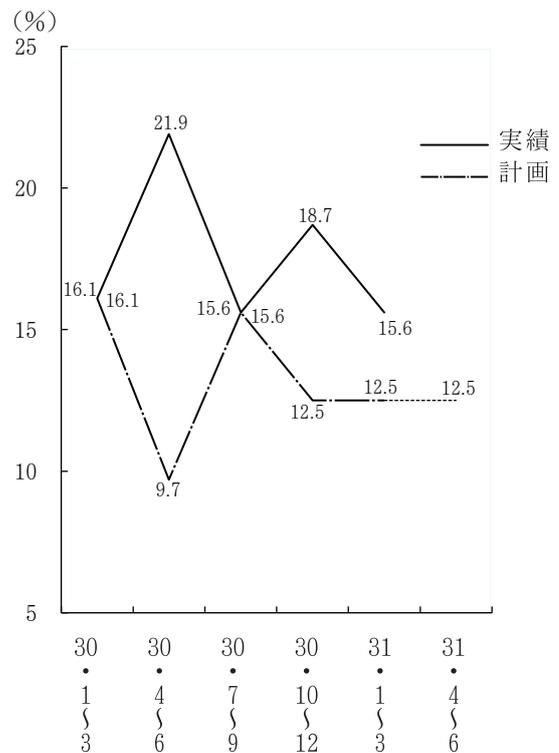
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は全体の 15.6% (前期 18.7%) で、前期と比べ△3.1 ポイント減少した。

その設備内容は、土地、生産設備、OA 機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 12.5% で、その設備内容は、生産設備、車両・運搬具、OA 機器となっている。

図 1 - 4 設備投資の状況

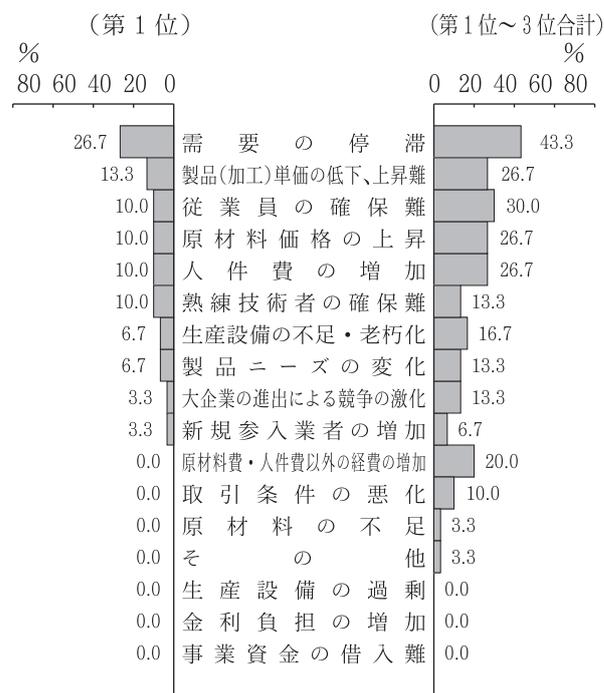


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「需要の停滞」で26.7%、次いで「製品（加工）単価の低下、上昇難」が13.3%、「従業員の確保難」、「原材料価格の上昇」、「人件費の増加」、「熟練技術者の確保難」が同率10.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも「需要の停滞」が43.3%（複数回答計、以下同じ）で最上位、次いで「従業員の確保難」が30.0%、「製品（加工）単価の低下、上昇難」、「原材料価格の上昇」、「人件費の増加」が同率26.7%で続いた。

図1-5 経営上の問題点



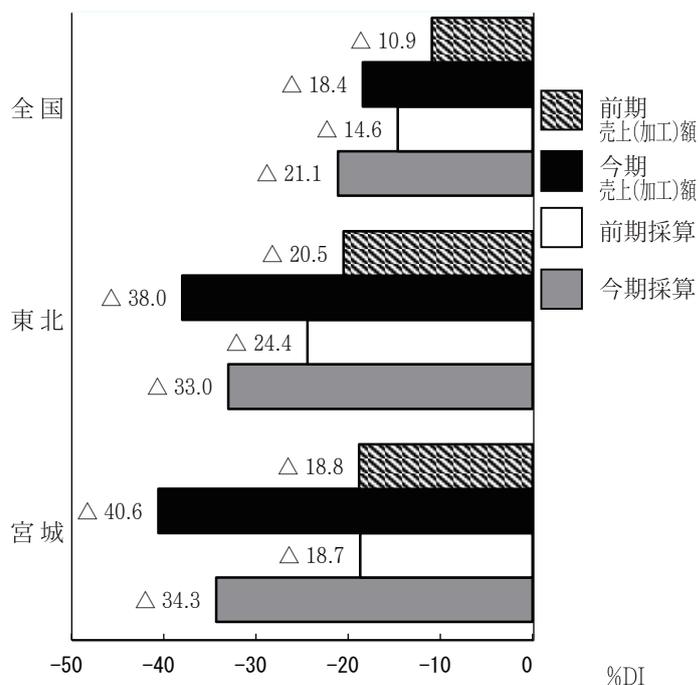
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上（加工）額DIでは全区分で悪化した。その悪化度は宮城、東北、全国の順であった。

採算DIの比較でも全区分で悪化した。その悪化度でも宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業者からは「後継者の育成と人件費の高騰が経営課題」（印刷業）や、「会社を運営していく過程において法的規制が厳しくなっている（賃金、労働条件、環境問題等）」（電子機器組立業）などのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）



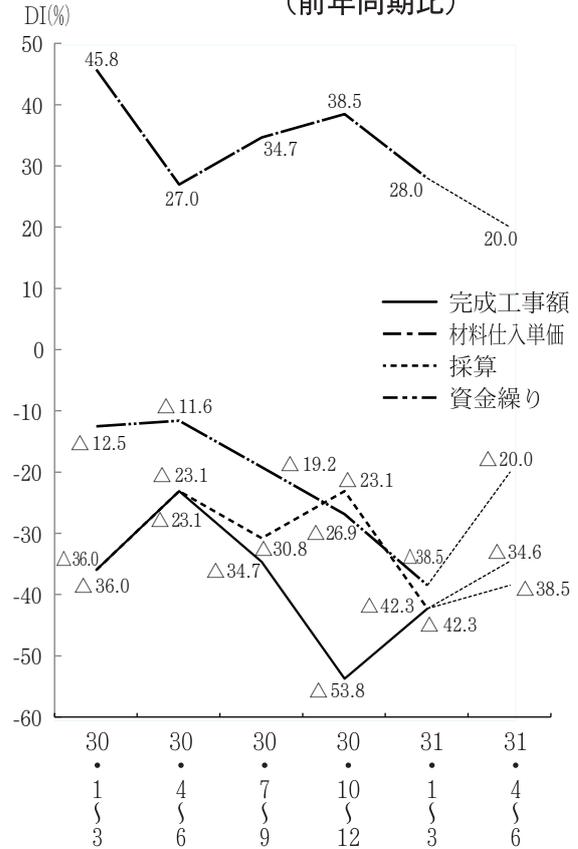
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△42.3（前期△53.8）と前期より11.5ポイント改善、採算D Iは今期△42.3（前期△23.1）で△19.2ポイント悪化、資金繰りD Iも今期△38.5（前期△26.9）と△11.6ポイント悪化した。

材料仕入単価D Iは今期28.0（前期38.5）と前期より△10.5ポイント下落した。

図2-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



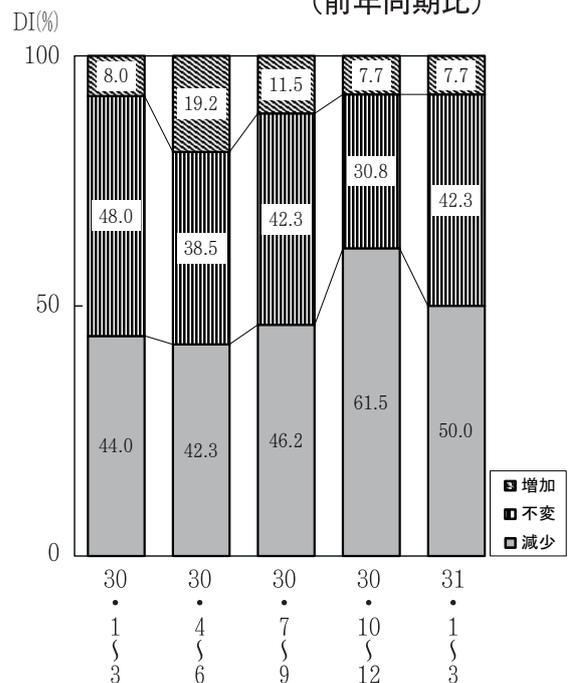
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の7.7%（前期7.7%）で横ばい、「減少」と回答した企業は50.0%（前期61.5%）で△11.5ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△42.3（前期△53.8）と11.5ポイント前期より改善した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

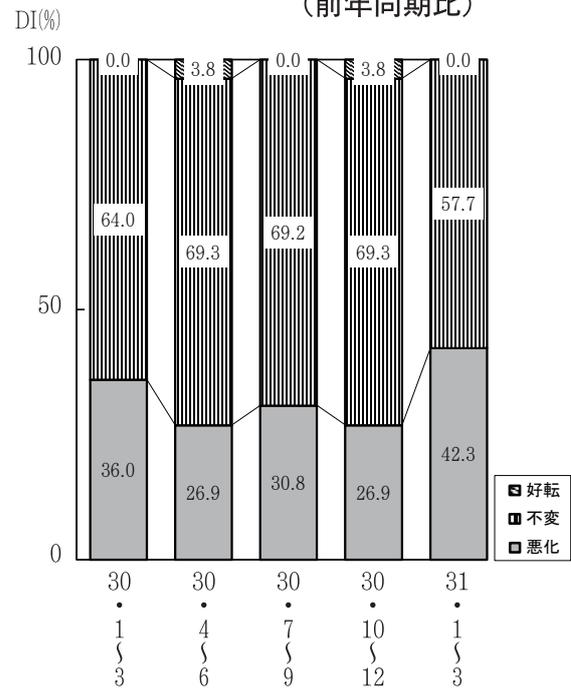


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 0.0% (前期 3.8%) で△3.8 ポイント減少、「悪化」と回答した企業は全体の 42.3% (前期 26.9%) で 15.4 ポイント増加した。

その結果、採算 D I は△42.3 (前期△23.1) と△19.2 ポイント悪化した。

図 2 - 3 採算の状況
(前年同期比)



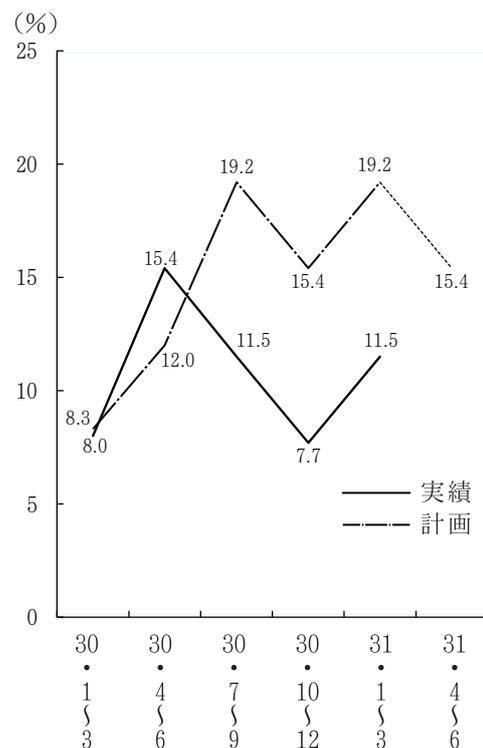
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施 (実績) 企業割合は全体の 11.5% (前期 7.7%) で、前期より 3.8 ポイント増加した。

その設備内容は、建物、建設機械、車両・運搬具、OA機器、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 15.4% で、その設備内容は、土地、建設機械、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、福利厚生施設、その他となっている。

図 2 - 4 設備投資の状況

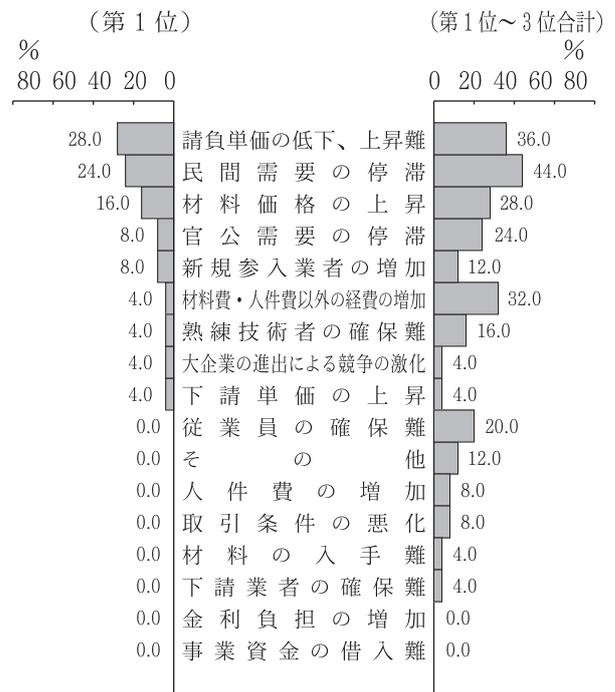


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「請負単価の低下、上昇難」が28.0%で、次いで「民間需要の停滞」が24.0%、「材料価格の上昇」が16.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「民間需要の停滞」が44.0%（複数回答計、以下同じ）で最上位、次いで「請負単価の低下、上昇難」が36.0%、「材料費・人件費以外の経費の増加」が32.0%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

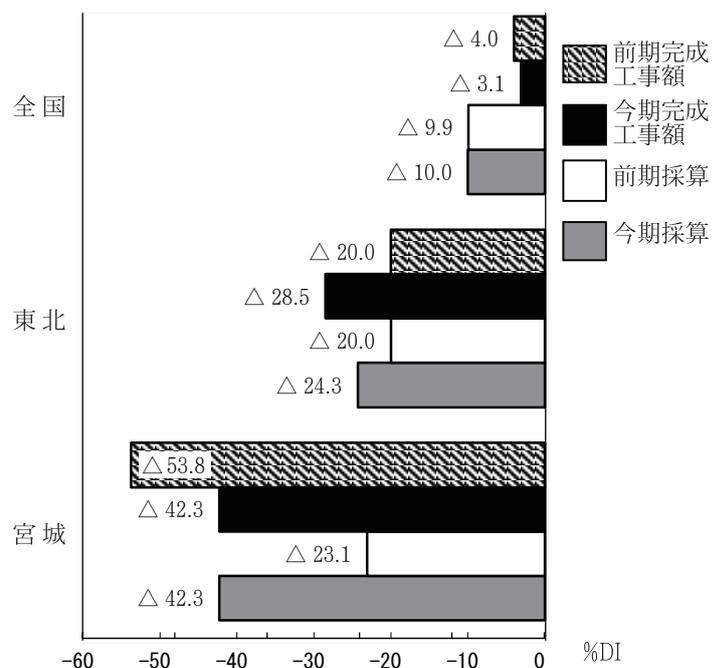
今期と前期との比較では、完成工事額D Iは全国で若干の改善、東北で悪化、宮城で改善となった。

採算D Iの比較では、全国で若干の悪化、宮城・東北で悪化となった。

その悪化度は宮城、東北の順であった。

本県回答事業所からは「事業承継後の経営環境の変動に対応していく」や「請負単価が低下し、利益率が低迷」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城完成工事額・採算比較（前年同期比）



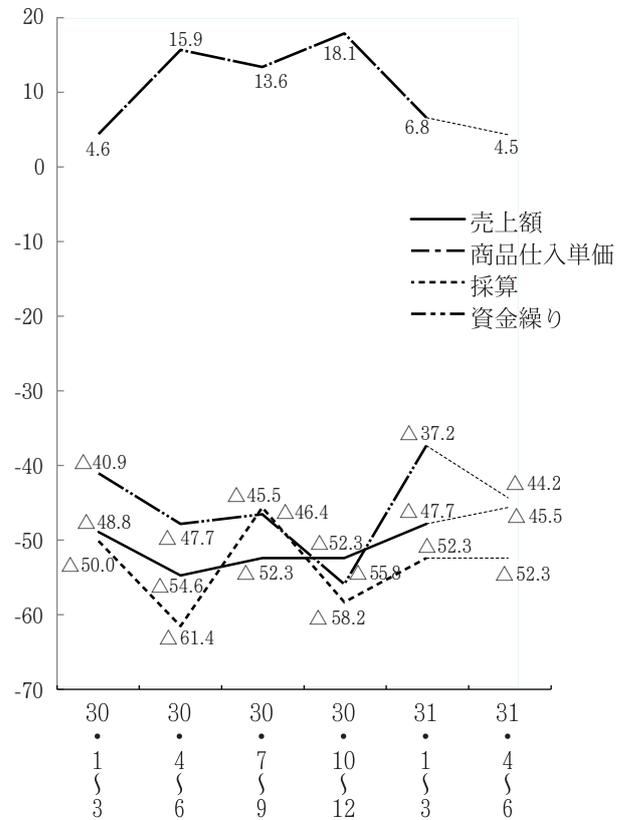
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△47.7（前期△52.3）と前期より 4.6 ポイント改善、採算D Iも今期△52.3（前期△58.2）で 5.9 ポイント改善、資金繰りD Iでも今期△37.2（前期△55.8）で 18.6 ポイント改善した。

商品仕入単価D Iは今期 6.8（前期 18.1）となり、△11.3 ポイント下落した。

図 3 - 1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



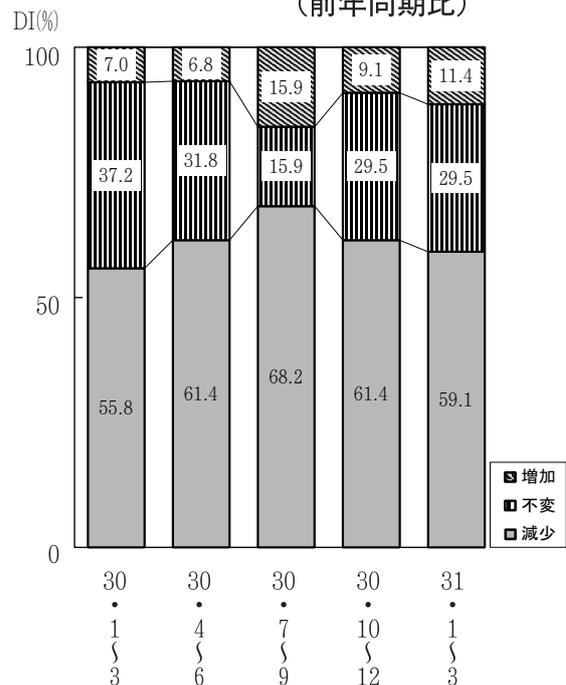
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の 11.4%（前期 9.1%）で 2.3 ポイント増加、「減少」の回答は、今期は全体の 59.1%（前期 61.4%）で△2.3 ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは今期△47.7（前期△52.3）と前期より 4.6 ポイント改善した。

図 3 - 2 売上額の状況
(前年同期比)

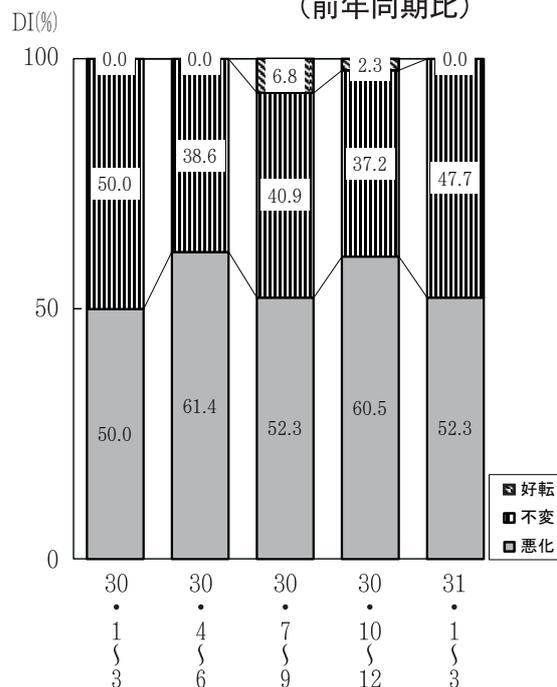


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の0.0%（前期2.3%）と△2.3ポイント減少、「悪化」の回答は、今期は全体の52.3%（前期60.5%）で△8.2ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△52.3（前期△58.2）で、前期より5.9ポイント改善した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



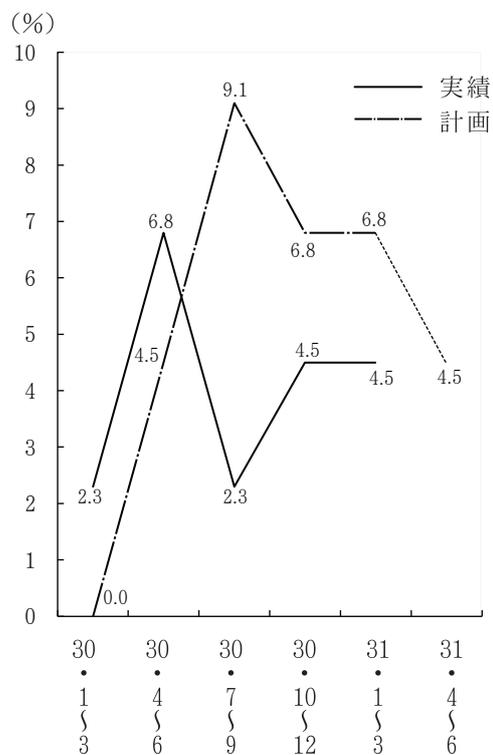
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の4.5%（前期4.5%）で、前期と同じであった。

その設備内容は、販売設備、車両・運搬具、付帯施設、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の4.5%で、その設備内容は、販売設備、車両・運搬具となっている。

図3-4 設備投資の状況

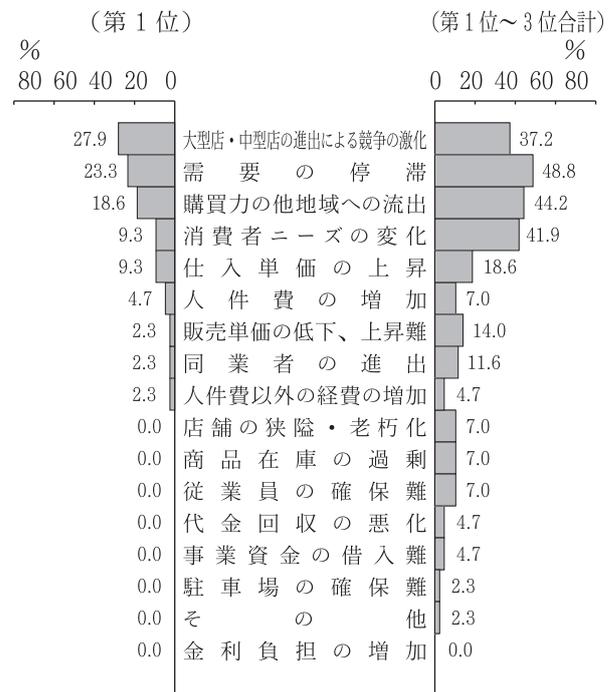


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「大型店・中型店の進出による競争の激化」で27.9%、次いで「需要の停滞」が23.3%、「購買力の他地域への流出」が18.6%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」が48.8%(複数回答合計、以下同じ)で最上位、次いで「購買力の他地域への流出」が44.2%、「消費者ニーズの変化」が41.9%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では、売上DIは全国・東北で悪化、宮城では改善した。

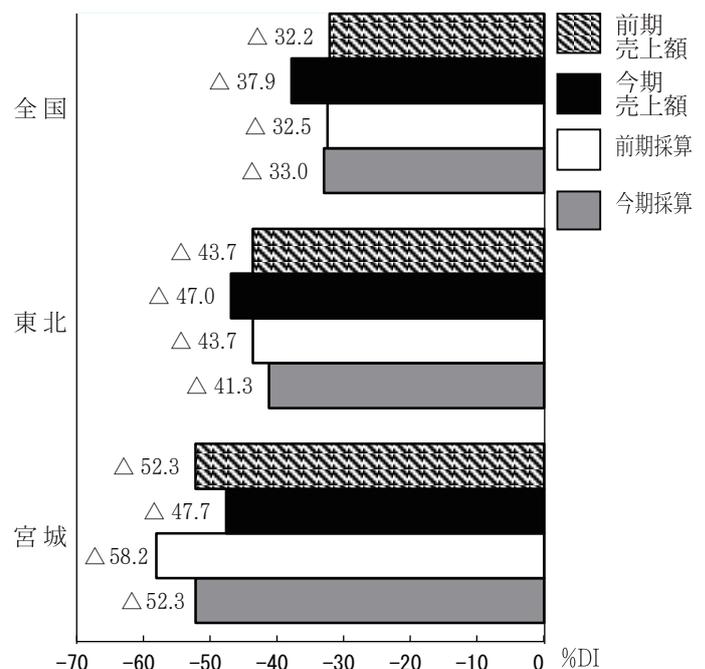
その悪化度は全国・東北の順であった。

採算DIでは全国で若干の悪化、東北・宮城では改善した。

その改善度は宮城・東北の順であった。

本県回答事業所から「売り上げは減少気味だが、客単価があがっていることに着眼していく」(花・植木販売)や「ネット通販が多くなってきていると実感(amazon、楽天等)」(家電販売)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)



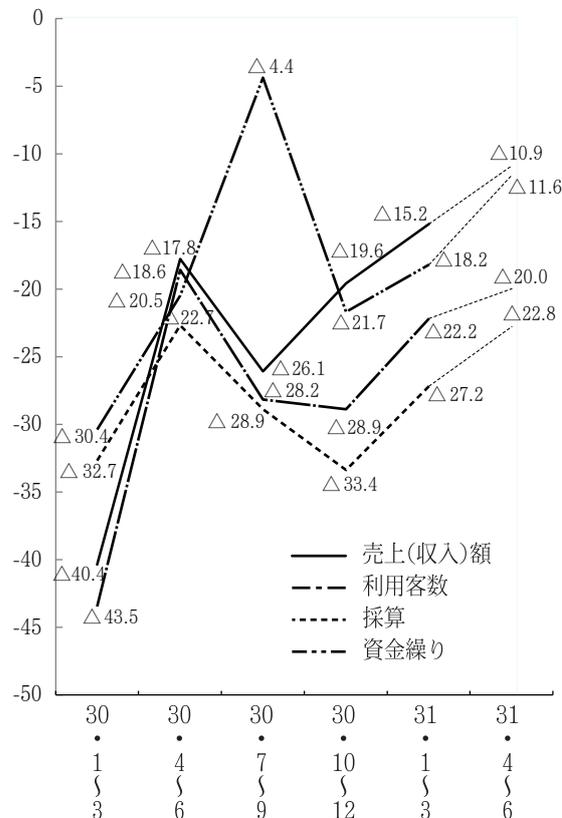
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは今期△15.2（前期△19.6）で4.4ポイント改善、採算D Iも今期△27.2（前期△33.4）で6.2ポイント改善、資金繰りD Iでも今期△18.2（前期△21.7）で3.5ポイント改善した。

利用客数D Iは今期△22.2（前期△28.9）で6.7ポイント増加した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



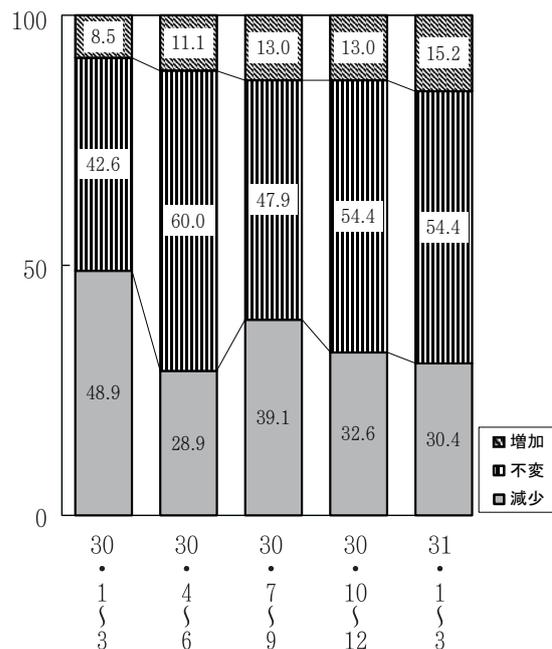
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の15.2%（前期13.0%）で前期より2.2ポイント増加、「減少」の回答は今期30.4%（前期32.6%）で△2.2ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額D Iは今期△15.2（前期△19.6）で前期より4.4ポイント改善した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

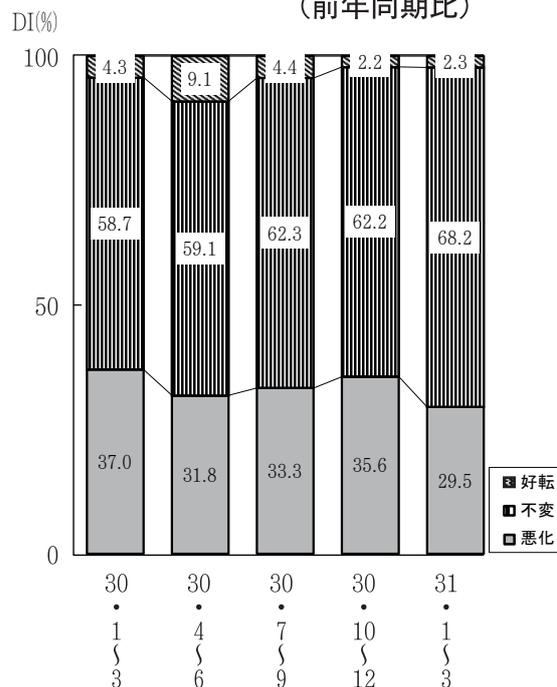


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の2.3%（前期2.2%）で0.1ポイント増加、「悪化」と回答した企業は今期29.5%（前期35.6%）と△6.1ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△27.2（前期△33.4）で前期より6.2ポイント改善した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



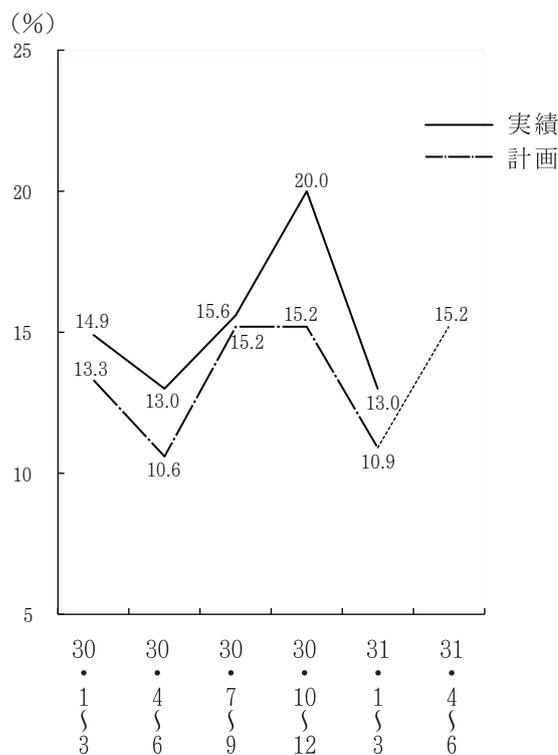
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の13.0%（前期20.0%）で、前期より△7.0ポイント減少した。

その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の15.2%であり、その設備内容は、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設となっている。

図4-4 設備投資の状況

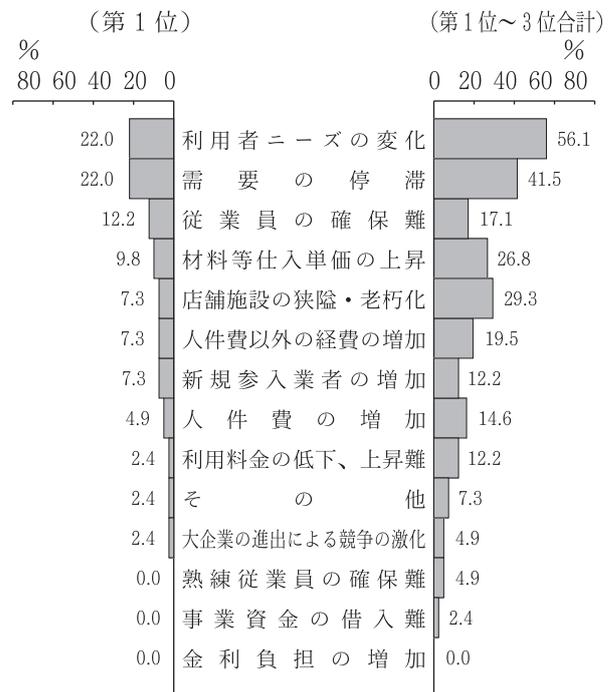


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「利用者ニーズの変化」と「需要の停滞」が同率で22.0%、次いで「従業員の確保難」が12.2%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では「利用者ニーズの変化」が56.1%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」が41.5%、「店舗施設の狭隘・老朽化」が29.3%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期と今期の比較において、売上(収入)DIは全国で若干の悪化、東北で悪化、宮城で改善した。

採算DIでは全国・東北で悪化、宮城では改善となった。

その悪化度は東北、全国の順であった。

本県回答事業所からは「来期店舗を改装し、売上等のアップを期待」(美容業)や「軽減税率やキャッシュレス決済への対応が課題」(飲食業)などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

